

## 事例

氏名	性別	年齢	住所	要介護度	担当
〇〇	女	85	〇〇町	なし	澁谷
<b>生活歴:</b> 〇〇町生まれ。4人兄弟の長女。1歳の時に父が教員をしていた関係で韓国プサンに移住、その時に発熱し左下肢に後遺症が残った。終戦後帰国。地元の高専卒業後18歳から町役場に勤務し53歳で足のケガや十二指腸潰瘍で通院が続き仕事に支障がでるため退職。現在実家に一人で生活されている。未婚。居住が2階のため、自宅内にエレベーター設置済み。 左下肢に小児麻痺あり、身体障がい者手帳所持。					
<b>性格:</b> 我慢強く、人に頼ることが苦手。					
<b>年金:</b> 共済、国民年金					
<b>現在の状況:</b> A医院通院中。エレベーター前で転倒。2日間は歩行できていたが、歩行困難となった。親戚の支援や熊本市内より帰省していた弟夫婦の支援あり自宅での生活を続けていたが、痛みにより食事摂取もできなくなってきたため、かかりつけ医に相談。紹介状を持参し2週間後B病院受診。レントゲンで骨折はないため、入院適応にならないが、独居であり、自宅での生活が困難のため、介護認定申請と同時に短期保護にて1週間対応することとなった。短期保護中は痛み止め内服後の痛み軽減は少しあるものの、あまり変わらないと言われていた。何とか杖歩行でトイレまでの歩行は可能。他の利用者と同室であったため、夜間不眠の訴えあり、短期保護を1週間で終了し自宅へ帰る方針となる。					
<b>現病歴:</b> 十二指腸潰瘍、上部消化管出血、白内障の既往あり。 高血圧、慢性心不全にて内服治療中。 臀部打撲傷					
<b>身体状況:</b> 屋内外移動: 独歩。転倒後より1本杖使用。 排泄動作: 昼夜トイレを使用している。 調理: 元々自立。転倒後は親戚が毎日持参してくれるものを摂取。 洗濯: 元々自立。転倒後は親戚が支援中。 掃除: 元々自立。転倒後は親戚が支援中。 買物: 元々自立。転倒後は親戚が支援中。 入浴: 元々自立。転倒後は入浴できていない。					
<b>内服薬:</b> ○イラムクスHD 1錠 ○ファモチジンOD(20)1錠 ○フロセミド(20) 1錠 /1日1回朝食後 ○モーラステープ ○リボスチン点眼液 20ml /1日4回両目 (B病院より処方)ロキソプロフェン錠60mg 3錠、レバミピド錠100mg 3錠/1日3回 朝・昼・夕食後 カロナール錠500 1錠/痛いとき 1日2回まで					

<想定される支援内容>

<主なアセスメント項目>